

編集後記

わたしの恩師である水津先生の業績を解釈する論考が久方ぶりに登場した。京都大学の教授時代、1980年代の作品への評価は、ことこの位相地理学に対してはなかなか難渋であったのではなかろうか。学界的には少々孤高の研究であったのかもしれない。当時の先生のある種の苦悶、あるいは新境地の開拓という知の生産者たる使命感を感じたものである。わたしもこのようなことを臆面もなく書いてしまう定年が見えてきた年代となったが、当時に比べ、ローバスタな知の生産は、地理学界において少ないまま推移してきた。良し悪しは別にして、知の評価者、知のクリティクは増えたような感を持っている。とはいえ、学界人口はシュリンクする一方で、「人文地理」誌も季刊に移行する中、知の世界の門を敲く若い世代も、かなり少なくなってしまった。

回顧的な書き方をしてしまったが、現実において、地域や社会との接点が格段に増え、学界としてよりは大学組織として地域貢献に携わる毎日である。少なくともわたしの所属する大学では、このような地域貢献において、地理学の研究者が中心となってくるシーンが大変多い。この貢献と、学界の水準向上がうまく接合できているとはいいたいもどかしさは持っている。このもどかしさを本誌が少しでも解消できるべく、今後とも編集を続けてゆきたい。

「空間・社会・地理思想」第19号編集代表者 水内俊雄

空間・社会・地理思想 第19号

発行日／2016年3月26日

編集／科学研究費基盤研究(B)「「コモンズ」をめぐる思想・理論・社会的実践に関する地理学的研究」(研究代表者 遠城明雄)
編集代表者 水内俊雄

編集協力／(有)地域・研究アシスト事務所

発行／©遠城明雄

九州大学大学院人文科学研究院

〒819-0395 福岡市東区箱崎6-19-1

電話・ファックス 092-642-2422

aonjo@lit.kyushu-u.ac.jp

印刷／ホウユウ(株)

〒590-0982 堺市堺区海山町1-8-4

電話 072-227-8231 ファックス 072-224-1466
